

# 水稻の生育状況と今後の管理対策（第7号）

平成 29 年 7 月 26 日  
新潟県農林水産部

## 〔要約〕

### 7月25日現在の水稻の生育状況

- ◎ コシヒカリの<sup>しゅっすいき</sup>出穂期<sup>\*1</sup>は、平年並みの見込みです。
- ◎ コシヒカリの葉色は、指標値（生育のめやす）に比べて、「並み」の状況です。

### 今後の管理対策

- ◎ コシヒカリの2回目の<sup>ほごえ</sup>穂肥<sup>\*2</sup>は、節間伸長にほとんど影響しないので出穂期 10 日前をめやすに必ず施用しましょう。
- ◎ 今後、出穂期にかけて、水を最も必要とする時期のため、<sup>ほうすい</sup>飽水管理<sup>\*3</sup>を継続し土壤が乾かないよう注意してください。
- ◎ カメムシ類の発生量が多くなっていますので、畦畔等の除草と薬剤防除を徹底しましょう。
- ◎ 熱中症を防止するため、農作業は気温の高い時間帯を避け、こまめに水分補給をしましょう。

\*1 出穂期：全体の茎の40～50%で穂が出た日

\*2 穂肥：穂が出る前に追肥すること。

\*3 飽水管理：土壤を湿潤状態に保つこと。

### 〔7月25日現在の生育〕

- コシヒカリの出穂期は、県平均で8月6日で平年並みの見込みです。
- コシヒカリの葉色は、指標値（生育のめやす）に比べて、「並み」の状況ですが、葉色の低下程度は鈍化したものの、指標値に比べ淡いほ場もあり、ほ場間差が見られます。

### 〔今後の生育見込み〕

- 北陸地方3か月予報（8月から10月までの天候見通し）では、8月は平年に比べ、晴れの日が少なく、平均気温は、平年並または高い確率ともに40%、降水量は、平年並または多い確率ともに40%の見込みです。
- 2回目の穂肥の施用により、葉色が維持されるものと見込まれますが、今後、高温・多照が続いた場合には、葉色低下が進み栄養不足につながる可能性があります。

### 〔当面の管理対策〕

- コシヒカリの2回目の穂肥は、節間伸長にほとんど影響しないので、出穂後の栄養を維持するため、出穂期10日前をめやすに必ず施用してください。なお、葉色のほ場間差が見られることから、葉色の推移をしっかりと把握して、穂肥を施用しましょう。
- 地域や田植え時期によって生育差が見られます。また、大雨により浸冠水したほ場もありますので、出穂期や穂肥の施用時期・量のめやすは、地域の技術情報を確認してください。

- 全量基肥施肥\*4（基肥一発）では、葉色が低下し、出穂期の葉色値（SPAD 値）が 32～33 を下回ると予想される場合には、追加穂肥を施用してください。また、有機質 100% 肥料を使用する場合は、化学肥料より早めの施用時期としてください。
- 今後、出穂期にかけて、水を最も必要とする時期です。土壤が乾きすぎると葉色の低下が大きくなり栄養不足になり易いので、飽水管理を徹底しましょう。
- カメムシ類の発生が平年より多く、斑点米の多発生が懸念されますので、出穂前までの畦畔等の除草と出穂後の薬剤防除を徹底しましょう。また、その他の病害虫については、発生予察情報を注視し、適切に防除を実施しましょう。
- 今後も農作業時の熱中症や事故を防止するため、施肥や草刈り等の作業は、日中の気温の高い時間帯を避けるとともに、水分補給をこまめに行いましょう。また、1人で作業する場合は、家族等へ行き先を告げるとともに、万が一に備え携帯電話を身につけておきましょう。
- 大雨により地盤が崩れ易くなっていますので危険な場所には近づかないようにしましょう。

\*4 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前に一度に施す施肥法。

◎ 今後の管理対策発行予定日

8月1日・22日、9月12日

## 〔補足資料〕

### 1 コシヒカリおよびこしいぶきの生育状況

1 頁の「水稻生育状況と今後の管理対策」の生育状況は、下記の生育調査結果及び他の調査結果を含めた生育状況です。

(1) 農業普及指導センターの「生育調査ほ」の結果は以下のとおりです。

- コシヒカリの葉色は指標値並み（表 1、表 2、図 1、図 2）。
- こしいぶきの葉色はやや濃い（表 3）。

表 1 コシヒカリの気象感応ほ調査結果

項目	7/25 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
葉色 (SPAD 値)	33.2	32.8	+0.4	・ 平年差 +0.3、H28 年差 +0.9 ・ 指標値並み。

注 1：県内 14 か所の平均、田植え 5/12、栽植密度 57 株/坪

表 2 品質安定化対策実証ほ調査結果（コシヒカリ）

項目	7/25 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
葉色 (SPAD 値)	32.2	32.9	-0.7	・ 指標値並み。

注 1：県内 13 か所の平均、田植え 5/12、栽植密度 58 株/坪

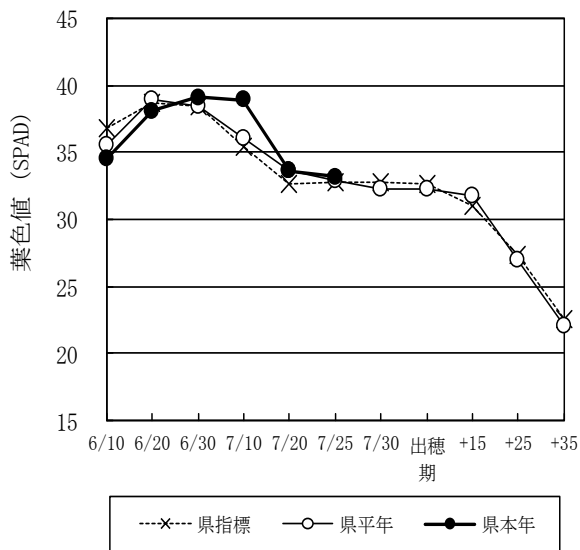


図 1 気象感応ほコシヒカリの葉色推移（県平均値）

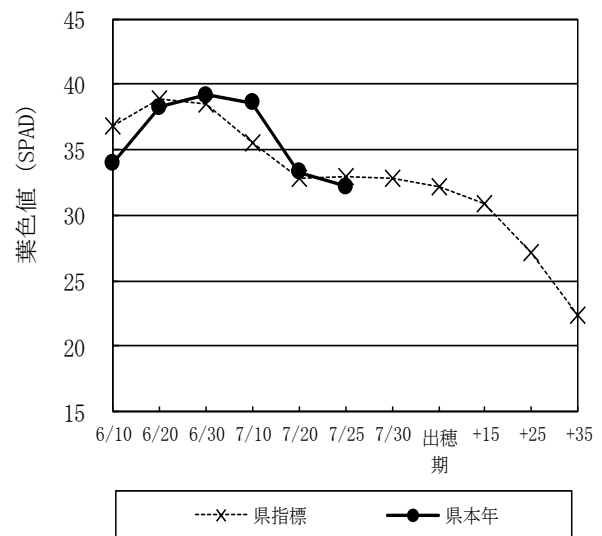


図 2 品質安定化対策実証ほコシヒカリの葉色推移（県平均値）

表3 こしいぶきの生育調査ほ調査結果

項目	7/25 平均値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	特記事項
葉色 (SPAD 値)	38.4	36.5	+1.9	・ 平年差 +0.8、H28 年差 +1.5 ・ 指標値よりやや濃い。

注1：県内13か所に設置した生育調査ほの平均、田植日5/10、栽植密度60株/坪

(2) コシヒカリの幼穂形成期の生育は以下のとおりです。

- 生育調査ほにおけるコシヒカリの幼穂形成期は平年並みであった(表4)。
- 草丈は指標値並みで、茎数は多い、葉色は濃い(表4)。

表4 生育調査ほにおけるコシヒカリ幼穂形成期の生育

地域	幼穂形成期(月日)			草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色 (SPAD 値)		
	本年	平年 差	前年 差	本年	指標 比(%)	前年 比(%)	本年	指標 比(%)	前年 比(%)	本年	指標 差	前年 差
下越	7/17	0	1	71	99	99	424	103	94	35.4	2.1	0.7
新潟	7/15	0	3	72	101	97	422	100	97	36.5	2.2	1.0
中越	7/15	0	1	73	100	96	474	112	121	34.8	1.1	-1.2
魚沼	7/14	-2	2	69	97	96	529	121	106	36.1	1.9	0.1
上越	7/12	-1	3	70	97	96	605	137	127	38.5	4.3	3.5
佐渡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
県全体	7/15	0	2	71	99	97	496	116	110	36.3	2.3	1.3

注1：県内15か所に設置した生育調査ほの平均、田植日5/11、栽植密度57株/坪

注2：平年値はH19～28年までの10か年の平均

注3：佐渡は7月23日～24日の大雨のため、調査を中止

(4) 作物研究センター調査は以下のとおりです。

- コシヒカリは、近年の平均値に比べて、草丈は91%でやや短く、葉色は濃い。葉数は前年並み(表5)。止葉の抽出の状況から出穂期は8月7日と予想され、平年より1日遅れる見込み。
- こしいぶきの生育は近年の平均値に比べて、草丈はやや短く、葉色はやや濃い。葉数は前年並み(表6)。出穂期は平年より2日遅い7月31日の見込み。

表5 コシヒカリの生育(調査日:7月25日)

	本年値	前年比・差	近年比・差
草丈	85cm	88%	(91%)
葉数	12.5	-0.2	—
葉色	34.2	+2.8	(+2.2)

注1) 田植5月11日、栽植密度は18.2株/m<sup>2</sup>。

注2) 草丈の( )は、近年比(過去データは平23~28、7月25日調査)。

注3) 穂肥 1回目7月20日、窒素成分量1kg/10a。

表6 こしいぶきの生育(調査日:7月25日)

	本年値	前年比・差	近年比・差
草丈	79cm	85%	(91%)
葉数	12.5	+0.1	—
葉色	36.9	+1.6	(+1.2)

注1) 田植5月11日、栽植密度は19.6株/m<sup>2</sup>。

注2) 草丈の( )は、近年比(過去データは平24~28、7月25日調査)。

注2) 穂肥 1回目7月10日、2回目7月18日、各窒素成分量1kg/10a。

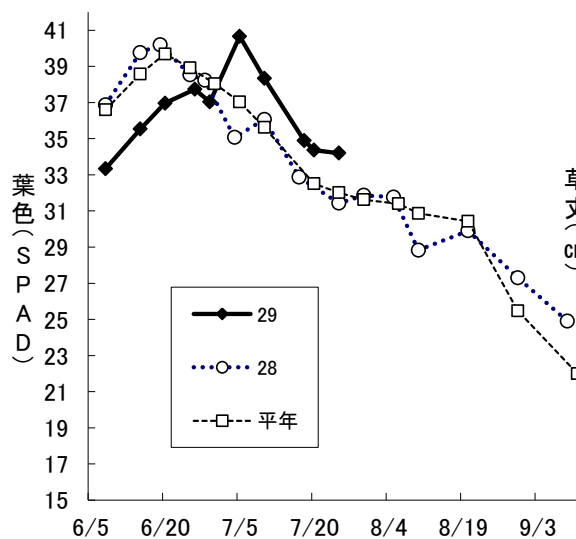


図3 コシヒカリの葉色推移

(29: 平29、28: 平28、平年: 平年値)

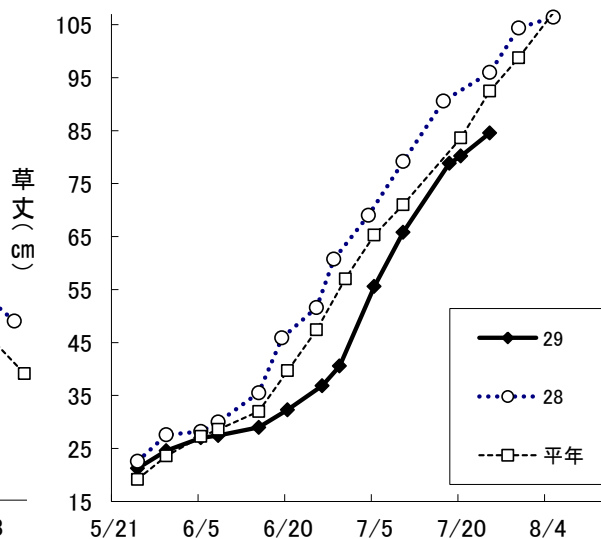


図4 コシヒカリの草丈推移

ちりよく  
2 地力窒素の発現状況

○ 7月20日～24日の日平均地温は平年比+2.0℃と高く（図7）、期間窒素発現は化学肥料区、堆肥区とも、7月以降は一貫して増加している（表7）。

表7 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/乾土100g)

調査日		5月10日 (初期値)	7月19日①	7月24日②	地力窒素発現量※ <sup>1</sup> (③=②-①)
化学肥料区	本年	3.1	6.9	7.2	0.3
	前年	1.8	5.3	6.2	0.9
	平年	2.3	5.2	6.2 ※ <sup>2</sup>	1.0 ※ <sup>2</sup>
堆肥施用区	本年	3.5	8.5	9.1	0.6
	前年	2.3	6.2	7.8	1.6
	平年	2.6	6.2	7.1 ※ <sup>2</sup>	0.9 ※ <sup>2</sup>

※<sup>1</sup> 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※<sup>2</sup> 7月24日の平年値は過去6年の平均であり、他の時期よりデータが大幅に少ないため参考値。

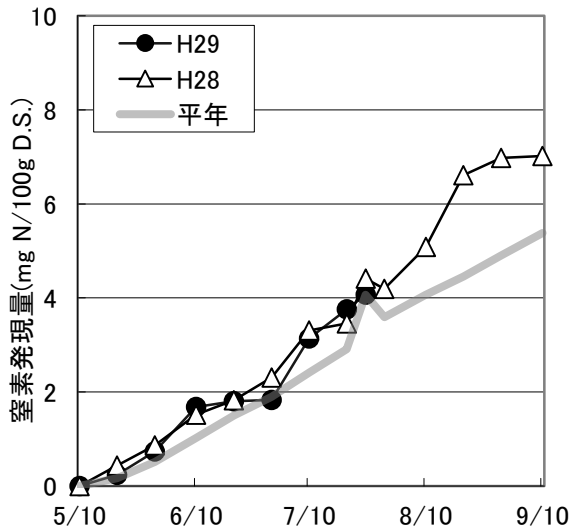


図5 地力窒素の発現推移  
(化肥区；初期値を0とした)

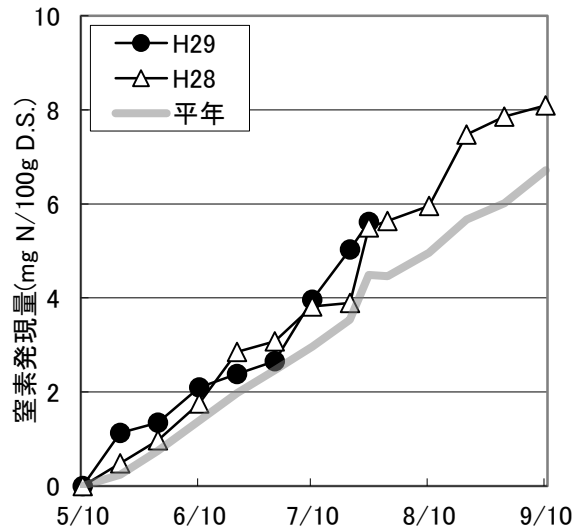


図6 地力窒素の発現推移  
(堆肥区；初期値を0とした)

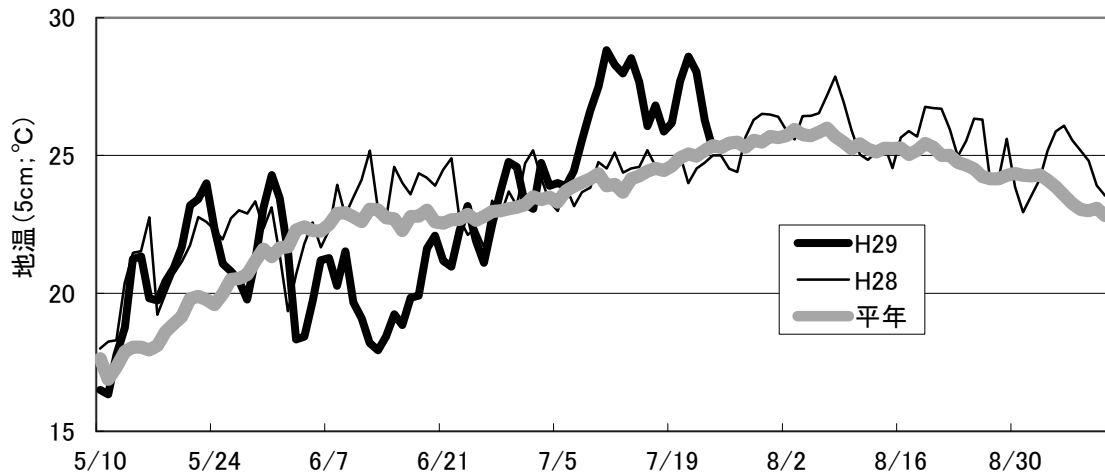


図7 地温（5cm）の推移